

唐津市立佐志小学校研究主題

思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成

～伝え合う活動を通して、自分の考えを深めることができる算数科指導方法の工夫～

1 主題設定の理由

本校は、令和2年度から「思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成」という研究テーマのもと、伝え合う活動に主眼を置いた国語科の研究を進めてきた。3年間の取り組みを通して、9割近くの児童が「話し合う前に自分の意見や考えをもっている」と感じており、思いや考えを伝え合う活動を充実させてきたことで「わからないことがわかった」「考えの違いに気づいた」「自分の考えがかわった」と伝え合う活動の有用性を実感している児童が増えた。また、昨年度は児童が「考えたい」「学びたい」と思える学習課題の工夫に取り組んできたことで、目的意識や話し合う必然性を持ち、意欲を持続して粘り強く学ぶ児童の姿へとつながってきている。

しかし、令和4年度実施の県学習状況調査から、国語科・算数科ともに伸びは見られるものの、県平均に達していない領域があった。特に、算数科の「思考・判断・表現」の観点や記述式の問題においては、県平均より下回る傾向にあった。正答率の低い問題を分析すると、「算数用語を十分に理解していない」、「条件を踏まえて記述することが十分でない」解答が多かった。課題解決を支える基盤となる「知識・理解」の観定の定着と算数用語を使いながら筋道立てて考えを伝え合う活動の充実が必要である。

そこで、今年度は昨年度までの国語科の研究を基盤として、数学的な活動の良さを味わうことができるような算数科の指導方法について研究を進めていきたい。児童が「考えたい」「学びたい」と思える課題の設定や数学的な活動を工夫し、問題解決に向けた個人思考の場と主体的・協働的に伝え合う活動を充実させていく。さらに基礎基本の定着に向けた取り組みを充実させることで、伝え合う活動を通して互いの考えを認め合いながら算数的活動の楽しさに気づき、自らの高まりを実感できる児童の育成を目指したい。

2 研究の目標

他者とのかかわりの中で問題を解決することを通して、児童が互いの考えを認め合い、自らの高まりを実感することができるような算数科指導方法を探る。

3 研究の仮説

算数科の授業実践において、次のような手立てを取れば、見通しをもって課題と向き合い、主体的に交流してよりよい解決方法を見出すとともに、考えの良さを認めて高め合うことができる児童の育成ができるであろう。

- (1) 学ぶ意欲を持ち続けることのできる学習課題と数学的活動の工夫
- (2) 個人思考の場と主体的・協働的な伝え合う活動の充実
- (3) 振り返りによる学びの自覚化

(4) 基礎基本の定着

4 研究内容与方法

- (1) 学ぶ意欲を持ち続けることのできる学習課題と数学的活動の工夫
児童が「考えたい、学びたい」と思える課題の設定・単元づくり（ラーニングマウンテン）
- (2) 個人思考の場と主体的・協働的な伝え合う活動の充実
話し合い活動（ひとみタイム）の充実…グループタイムでの話型・思考ツールの見直し，
算数用語等の精選
学びを広げ深めるためのコーディネート…「さし人学習」の見直し，ノートと板書の工夫
一人一台端末の効果的な活用
- (3) 振り返りによる学びの自覚化
学びを自覚できる効果的な振り返りのポイントの設定
- (4) 基礎基本の定着
スキルタイムの充実
資料・掲示物等の充実（算数言葉・説明言葉・図等の系統的指導資料作成）
算数言葉・算数的活動に触れる環境づくり

5 年間計画

月	全体会（予定）
4/12（水）	・校内研究① 今年度の校内研究計画提示
5/24（水）	・校内研究② 全校研授業者決定及びG研の日時検討・決定
5/31（水）	・校内研究③ 理論研修（新真一先生来校）
6/7（水）	・校内研究④ 小中連携（佐志中参観）
7/12（水）	・校内研究⑤ 全国学力・学習状況調査分析
7月下旬	・校内研究⑥ 共通実践事項確認，指導案形式提案
7月下旬～8月上旬	・校内研究⑦ 指導案検討会（学年G）
9/20（水）	・校内研究⑧ 指導案検討会（学年G）
10/18（水）	・校内研究⑨ 全校研授業1
11/7（火）	・校内研究⑩ 全校研授業2（新真一先生来校）
12/13（水）	・校内研究⑪ 全校研授業3
12/20（水）	・校内研究⑫ 研究のまとめ提案 次年度の校内研におけるアンケートの実施 児童アンケート考察
1/17（水）	・校内研究⑬ 研究のまとめ作成
1/31（水）	・校内研究⑭ 研究のまとめ作成
2月初旬	研究のまとめ 印刷・製本
2/14（水）	・校内研究⑮ 今年度の成果と課題の確認 次年度の校内研の検討

学校教育目標 「自分も他者も大切にすることをしっ子の育成」
めざす子どもの姿 「気づき、考え、実行する」子ども



研究主題 「思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成」

～伝え合う活動を通して、自分の考えを深めることができる算数科指導方法の工夫～

研究目標 他者とのかかわりの中で問題を解決することを通して、児童が互いの考えを認め合い、自らの高まりを実感することができるような算数科指導方法を探る。

【めざす児童像】

見通しをもって課題と向き合い、主体的に交流してよりよい解決方法を見出すとともに、自分や友達の考えの良さを認めて高め合うことができる児童

- ① 単元・本時の見通しをもち、ねばり強く協働的に課題解決に向かおうとする児童
- ② 自分や友達の考えの良さを認め、互いの考えを広げ深めることができる児童
- ③ **数学的な活動**の良さや数学の良さに気付くことができる児童

事象を数理的に捉えて、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること。

【組織】

研究推進委員会（校長，教頭，教務，研究主任，低中高1名，特支1名）

まなび部 加山，谷口，藤田，前川，井本，鶴田梨

【低学年グループ】

藤田，榎，鶴田梨
藤原，麻生

全校研授業者

【中学年グループ】

鶴田愛，井本，加山
本田，増本，谷口

全校研授業者

【高学年グループ】

松本，門川，田川
前川，山田，池田

全校研授業者